

1年生 事例の見方

小学校教育は、幼児期からの育ちを意識した学習活動の工夫を行っています。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を意識した指導を工夫することで、幼児期からの学びの連続性を踏まえた授業づくりを行うことができます。幼児期の育ちをどのように小学校教育につなげていくかを見てみましょう。

テーマ・ポイントを記載

学び(表現)

19 1年生事例

〈図工〉ちぎってやぶって だいへんしん

学習のねらい(教科)

- 破いた紙の見方や置き方、組み合わせ方を工夫するなどして、絵に表す面白さを味わう。
- 破いた紙の形から思いついたことをもとに、表したいことを考える。
- 友達の絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見つける。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 幼児期に学んだことを問いかけ、引き出しながら、経験したことを踏まえて、同じ部分や相違点に気付くように言葉をかける。(B④-①)
- 子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。(B④-③)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	教師が行うモデリングを見てやり方を知る。	・ちぎったり、破ったりしてできた紙を見せて子どもたちが思いついたことを、自由に発表させる。 ・組み合わせたり、色をぬったりしてよいことを伝える。	
展開	かみをちぎったり やぶったりすると、どんなものにへんしんさせられるかな。 - 自分が選んだ紙を手でちぎったり、破ったりする。 - 偶然できた形が、何に見えるか考える。 - 台紙の上に置いてちぎったり、破ったりした紙を並べたり組み合わせたりして、形のちがいを試す。 - 表したいことのイメージを広げながら思いついたことを、パスや色鉛筆、紙片などを使って表す。 - 友達の作品を見合いながら、表したいことについて話し合う。	- いろいろな固さや色、大きさの紙を用意する。 - 偶然できた形が何に見えるかを、考えさせる。 - つくりたいものをちぎったり、破ったりしてつくるのではないことをおさえる。 - 絵の部分がくならないように声をかける。 - イメージがわきにくい子どもたちには、班の友達と一緒に考えてもよいことを伝える。 - どうしても、イメージがわからない子どもには、個別に声をかける。	豊かな感性と表現 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 思考力の芽生え 協同性
まとめ	- 友達の作品を見て、気に入ったところを伝え合う。 - 仕上がった作品を見て好きなところや工夫したところを伝える。 - 友達の作品のよさを見つける。	- 自分の班だけでなく、教室の中を自由に見て回らせる。 - 友達の作品のどこが気に入ったのか、理由も考えさせる。 - 作品について交流し、互いのよさに気付かせる。	言葉による伝え合い 思考力の芽生え 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に表現する楽しさを味わっている子どもは、小学校においても安心して自由に表現することができます。また、友達のイメージしたことに関心をもち、その工夫やよさに気付くことができます。

この授業はどんなねらいなのだろう？

架け橋期カリキュラムより抜粋
B→指導上の留意事項
先生の関わり
④→時期(1年生5月～9月)
①→上から1番目の項目

幼児期のどんな育ちが繋がっているのだろう？

幼児期の育ちや経験を意識してどのように展開していけばよいのだろう？

学習課題
子どもが主体的に学習に取り組めるように設定しています。

幼児期の育ちを意識した指導上の留意点ってどんなことだろう？

この授業で見られる、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)はなんだろう？

幼児期の育ちや経験を小学校教育でどのように生かしたらよいのだろう？